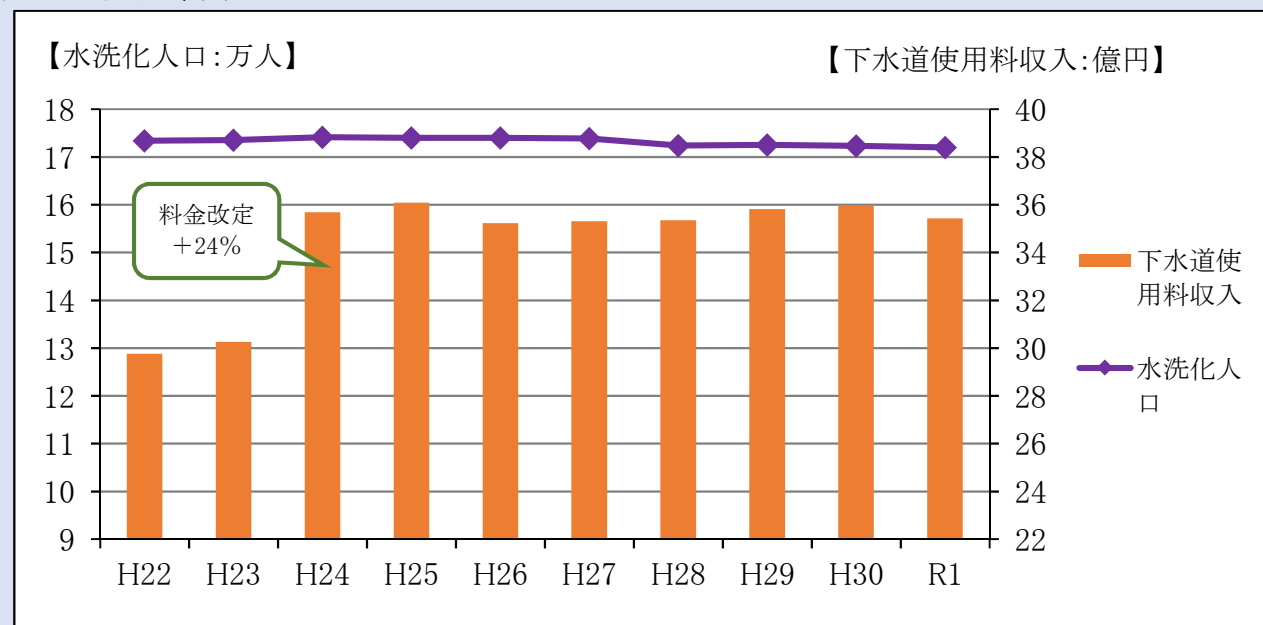


令和元年度 下水道事業 決算の概要

①下水道使用料収入



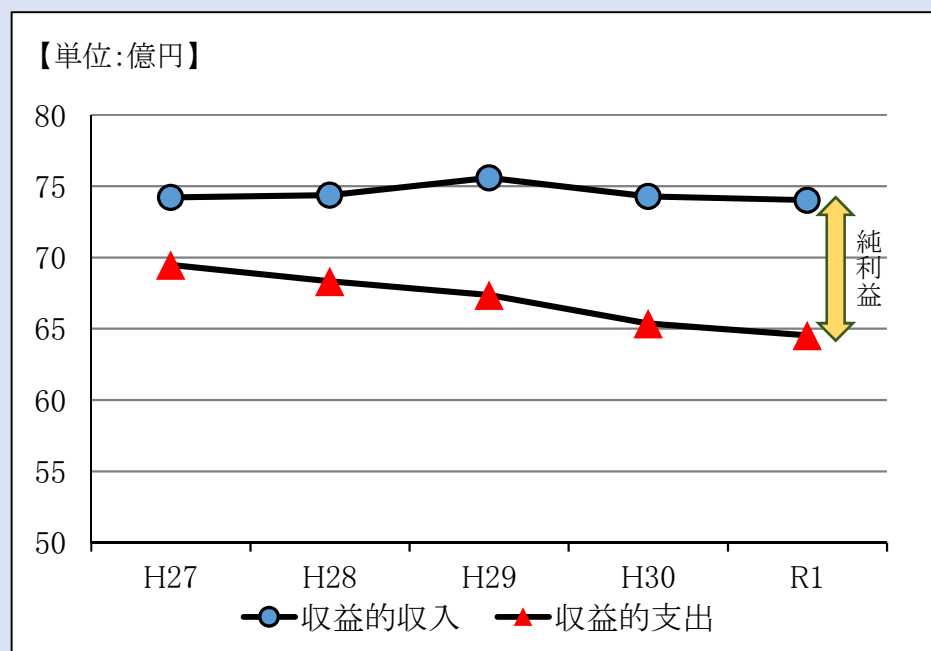
【決算の状況】

下水道使用料収入は約35億4千万円で、前年度に比べ約5千万円減少しました。ここ数年は大口使用者の堅調な使用状況に支えられ収入が増加傾向にありましたが、本年度は一部大口使用者の水量減少の影響がありました。

【今後の見通し】

大口使用者の今後の動向は見通すことは難しいですが、人口は減少していく見通しとなっているため、下水道使用料収入も減少していく見込みです。

②収益的収支



収益的収入:

お客さまからいただく水道料金など通常の業務活動に伴う収入。

収益的支出:

施設の維持管理にかかる費用など通常の業務活動に伴う費用。

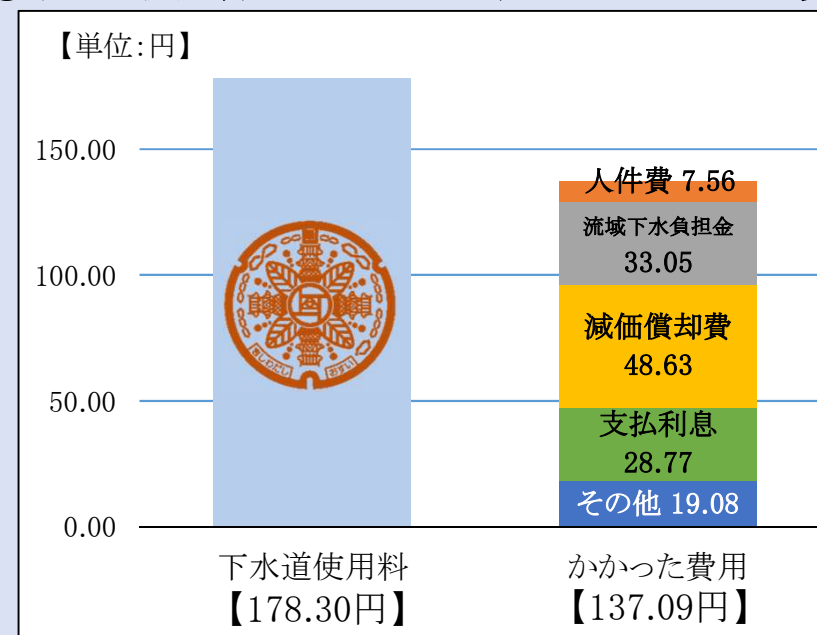
【決算の状況】

下水道使用料収入の減少により収益的収入は減少しましたが、収益的支出はそれ以上に減少し、収入から支出を引いた純利益は約9億5千万円でした。収益的支出の減少は、支払利息が大幅に減少したためです。

【今後の見通し】

今後下水道使用料収入は、水道料金と同様減少する見込みです。一方費用では、企業債残高の減少により支払利息が減少する見込みです。しかし、施設老朽化による修繕費の増加や流域下水負担金の増加が懸念されます。

③下水道使用料と水をきれいにするためにかかった費用の比較(1m³当たり)



【決算の状況】

企業債残高が大幅に減少しているため、支払利息が前年度に比べ4.02円減少しました。「下水道使用料」>「水をきれいにするためにかかった費用」となっており、費用を料金で賄うことができています。

【今後の見通し】

支払利息は今後も減少する見込みですが、流域下水負担金については大阪府から費用負担の見直しを求められていて将来的に増加する見込みです。

流域下水負担金:

大阪府が運営する流域下水道に支払う負担金のうち維持管理費に係るもの。

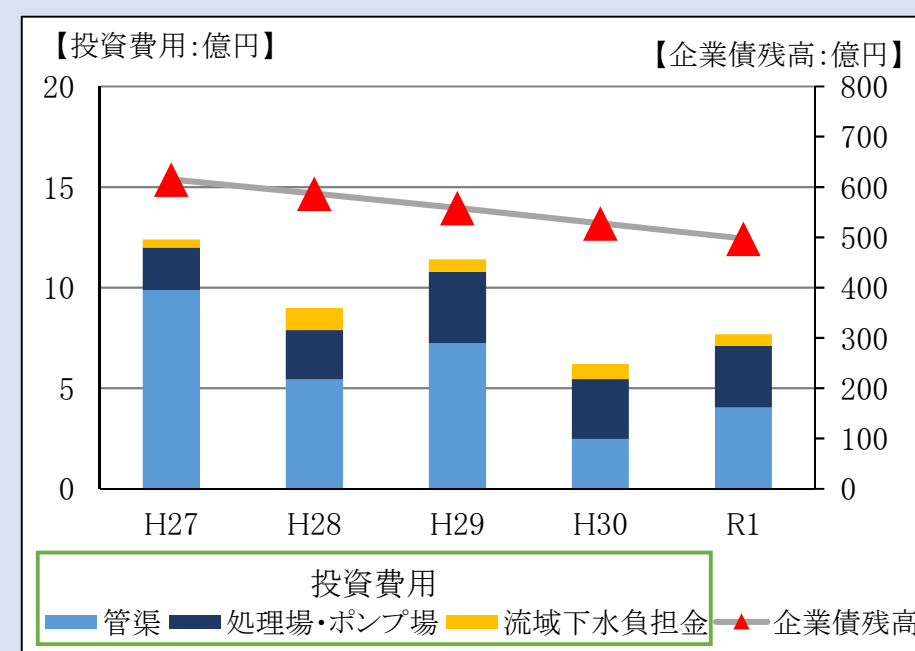
減価償却費:

管渠や施設など長期間にわたって利用する資産を購入したとき、その購入価格を、利用期間にわたって毎年平準化して費用に計上するもの。

支払利息:

企業債などの長期借入金や短期借入金の利息の支払い。

④投資費用と企業債残高



流域下水負担金:

大阪府が運営する流域下水道に支払う負担金のうち投資費用に係るもの。

企業債:

投資費用の財源に充てるため、国や金融機関などから借り入れる借金。借り入れた後、30年かけて少しずつ返済することにより、負担を平準化しています。

【決算の状況】

投資費用は約7億7千万円でした。丘陵地区整備事業があった平成27～29年度と比較すると投資費用は小さくなっています。近年、企業債残高を抑えるため、投資費用は必要最小限に抑制しています。

【今後の見通し】

企業債残高は毎年度約30億円減少していますが、各年度の純利益は全て、企業債の返済のために使っている状態です。企業債残高はまだ約500億円あり、企業債の返済の負担が軽くなるまであと約10年かかる見込みです。